

■金栗四三 日本人初のオリンピック出場のマラソン選手、人生をマラソン振興に捧げた日本の“マラソンの父”。

かなぐりしぞう

足尾鉦毒始・1891＝ 熊本県玉名郡春富村で、金栗信彦・シエの子に生まれる。男4人・女4人の8人兄弟の7番目。

日清戦争始・1894＝ 3歳：

病弱なため家業酒造業も止めていた父の血を受けてか、病弱であったが、

八幡製鉄始・1897＝ 6歳：春富村の吉地尋常小学校に入学、

ピア/国産化・1900＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝10歳：卒業。玉名北高等小学校に進み、

片道6kmもある距離を毎日走って往復するうち、丈夫になるとともに、成績も向上、クラス1、2番になる。

日露戦争終・1905＝14歳：父が死去。長兄が学費を引受けてくれ、県立熊本中学玉名分校(翌年玉名中学)に入学し、寄宿舎に入る。

満鉄発足・1906＝15歳：成績優秀で特待生となる。

アラクイ創刊・1908＝17歳：

伊藤博文暗殺1909＝18歳：学費不要の海軍兵学校を受けるも不合格。

韓国併合・1910＝19歳：改めて、学費不要の東京高等師範学校を志願し合格、中学卒業とともに、上京して入学。全校長距離競走で3

位となり、下級生だったため、嘉納治五郎校長から特に褒められ、徒歩部に入り、

大逆事件判決1911＝20歳：\*早くも優勝。オリンピック国内予選会があるのを知り、マラソンで申し込み、長距離競技大会にでたこと

明治天皇没・1912＝21歳：\*ストックホルムでの第5回オリンピックに、短距離の三島弥彦とともに日本初のオリンピック選手となり、

マラソンに出場、疲労で意識喪失棄権(失踪と報じられる)するも、嘉納校長から励まされ、

大正政変・1913＝22歳：第1回陸上競技選手権大会に出場して優勝、(国際的公認では無いが)世界記録と報じられる。

第一次大戦始1914＝23歳：玉名郡の池部家へ婿入り結婚。卒業後、次回オリンピックに挑戦するため、あえて研究科へ進むが、第一

次大戦勃発でオリンピックは中止に。そこで、自らの練習以上に後輩の育成に力を注ぎ、全国の学校長に手

紙を出し、共鳴してくれるとそこへ指導に赴き、3年間で60校になる。第2回陸上競技選手権大会でも国内で

は世界記録更新とされる。

21ヶ条要求・1915＝24歳：大日本体育会から功労賞。

民本主義・1916＝25歳：神奈川師範学校に地理担当で赴任。

ロシア革命・1917＝26歳：東海道五十三次駅伝を企画、(読売新聞)主催の東京奠都五十周年記念行事となり大成功、日本初の駅伝に

なる。(時事通信)の富士登山マラソン競走を5年ぶりに復活、門下生全員出場させ、自ら審判をつとめ、

本格政党内閣1918＝27歳：以後、富士登山駅伝競走大会となって戦後にかけて36年続く。

ベルサイユ条約・1919＝28歳：秋葉祐之と、若者を刺激すべく、下関～東京を20日間で走破、日光～東京を10時間で完走。

大暴落・1920＝29歳：アメリカ大陸横断駅伝の夢を抱き、その準備にと発案した第1回箱根駅伝が開催され、現在も人気ある正月

行事となって行く。なお国内トップで、オリンピック・アントワープ大会に出場し、16位。

原敬首相暗殺1921＝30歳：東京女子師範学校に就職。

水平社結成・1922＝31歳：秋葉祐之と、樺太～東京を20日間で走破するなどして、マラソンの啓蒙普及に努め、ギリコの初代マーク

のモデルでもあったらしい。

関東大震災・1923＝32歳：ヨーロッパでの体験から、女子の運動競技参加にも熱心で、関東女子体育連盟を設立。

護憲三派圧勝1924＝33歳：\*この年齢になっても国内で追い越す者がなく、パリ大会に連続出場するも、途中意識不明となって落伍、第

一線から引退。以後、後輩の育成に本格的に取り組んで行く。

金融恐慌・1927＝36歳：

海軍軍縮条約1930＝39歳：この年、お茶の水高等師範と改称。

満州事変・1931＝40歳：帰郷。栗木義彦と、九州一周走破。学校を巡り、対抗マラソン大会や駅伝競走するなど、普及に奔走。

二二六事件・1936＝45歳：日本初のオリンピック誘致活動のため上京し、大塚十文字高等女学校に勤めながら、奔走するも、

日中戦争始・1937＝46歳：東京大会返上となったため、

健保+総動員1938＝47歳：5人の日本女子陸上選手を引連れて台湾遠征したり、

大政翼賛会・1940＝49歳：実業家宗像金吾から依頼され、全国的なマラソン大会を企画、2日に渡って開催し大成功。

日米開戦・1941＝50歳：青葉高等女学校に転職し、女子体育振興に努める。

敗戦・1945＝54歳：日本陸連の国際陸連から除名される。帰郷。同志を集めて(日本のマラソンを強くする会)を結成し、

新憲法公布・1946＝55歳：同志と、熊本県体育会を設立して、初代会長となり、第1回県民体育祭開催に尽力。

新憲法施行・1947＝56歳：箱根駅伝復活。熊本市で金栗賞朝日マラソンが開催される。

極東裁判判決・1948＝57歳：熊本県初代教育委員長となる。

三大事件・1949＝58歳：佐世保で西部マラソン30km大会開催。第4回国民体育大会でマラソン2位の山田敬蔵に可能性を見出し、

朝鮮戦争始・1950＝59歳：日本陸連の国際陸連への復帰が認められる。\_(オリンピック・マラソンに優勝する会)設立。

独立回復・1951＝60歳：

メー-事件・1952＝61歳：熊日社会賞を受賞。九州一周駅伝を企画。\_ヘルシンキでのオリンピックでは山田は26位に終わるが、

TV放送始・1953＝62歳：西日本文化賞受賞。\_ボストンマラソンの監督として、山田を初めて優勝させ、宿願を果たす。

自衛隊発足・1954＝63歳：

55年体制始・1955＝64歳：熊本県近代文化功労者。\_紫綬褒章、記念して熊日30km招待マラソン開催、のちロードレースとして続く。

国連加盟・1956＝65歳：\_金栗賞朝日マラソンが朝日国際マラソンとなり、

インスタントラーメン・1958＝67歳：金栗杯勿来の関マラソン大会スタート。\_朝日文化賞。開催地が福岡に変更、

美智子妃・1959＝68歳：第11回西部マラソン30km大会を玉名市で開催、以後、市の行事として定着。

安保闘争・1960＝69歳：熊本での第15回国民体育大会に、最終聖火ランナーとなる。

全国総合計画1962＝71歳：玉名市名誉市民となる。

TV宇宙中継始1963＝72歳：

東京オリンピック1964＝73歳：東京でのオリンピックが実現、\_功績認められ勲四等旭日小授章、

大学紛争始・1965＝74歳：\_秋の園遊会に招待される。

美濃部都知事1967＝76歳：\*朝日国際マラソンが実質としても国際化。ストックホルム大会で失踪行方不明扱いだったことを知ったス

ウェーデンのオリンピック委員会から、55周年記念式典に招待され念願のテーブルを切って、

大阪万博・1970＝79歳：西部マラソン30km大会は金栗杯玉名30kmマラソン大会となる。

日中国交回復1972＝81歳：熊本走ろう会が発足、名誉会長となる。

ドイツ統一1983＝92歳：\_没した。

生涯に走った距離は25万kmといわれる。